

# 長崎 検定

## 一級 さん

Vol.51

### いつも長崎と共に

### 福田由紀子さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルター。  
その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。  
ざっくばらんに寄稿願いました。

この寄稿はどうしても長崎の街並を見ながら書きたいと思い、開通した新幹線で長崎へやってきました。駅近くの喫茶店でパソコンを広げたら、目の前をちょうど市電「みなと」が通りましたので、なんだか良いものが書けそうな気がします。気のせいでしょうけど。

私が初めて長崎を訪れたのは、小学二年生の夏休み。母と、一泊二日の旅行です。教会のステンドグラス、その向こうに中国寺、そしてお寺の鐘の音。石畳を母と歩きながら、ワクワクを抑えきれなかったのを覚えています。その言葉にできない趣は「異国情緒」と言うのだと、後で知りました。かくして長崎の虜となった少女の私は、図書館で長崎の観光ガイドブックを読み漁り、平成2年の『旅』博覧会』に連れて行くよう母にせがみます。松ヶ枝にあったスカイタワー、覚えておいででしょうか。大人になっても、街をさるいてワクワクする気持ちは変わりません。坂に登って

道端にある案内板を読んでは、そこから外国船を眺めた人たちを想像したり、その頃の海はもっと広く見えたのかなと考えたり。仕事で疲れた時は、急に思い立って特急に乗り、港の景色や夜景に癒されました。そういえば歌手のさだまさし氏は、「長崎小夜曲（セレナーデ）」の中で、「疲れた時には帰っておいで ため息は終着駅の改札口で預けておいで」と歌っています。

20代で長崎検定の三級、二級を取得してから十数年後、コロナ禍でステイホーム中、何かを身につけたい、学びたい、という思いで、一級に挑戦することにしました。まずは「わかる！和華蘭」

や「長崎遊学シリーズ」を中心に基礎知識を身につけ、公式テキストを解説まで読み込んで頭に入れました。短文記述の練習も繰り返し行い、何とか2回目のチャレンジで合格。ご褒美に一級の会の仲間に入れていただき、改めて、長崎には郷土を愛する人がこんなにもいるのかと、皆様の知識の

深さとそれを伝えようとする熱意に感動しています。

一級取得により、やっと学びのスタート地点に立てたと感じています。百年に一度の変革で劇的に変わっていく長崎を、少しの寂しさも感じながら楽しみつづ、これからも勉強を続けていきます。

最後に、長崎市片淵出身の夫へ。勉強中は温かく放っておいてくれて、でも休日には小ヶ倉のソロバンドックへ同行し、ガイドさんのお話を一緒に楽しんでくれてありがとう。次は、外海に付き合ってね。



**【プロフィール】**  
佐賀県鳥栖市在住。  
公立中学校教員（音楽）。  
休日はオーケストラやアンサンブルで打楽器を叩いています。